



■南山・禅師山

(宍粟50山の一番低い山・南山と2番目に低い山・禅師山に登る)

- 山 行 日：12月9日(水)
- 参 加 者：L 上田 SL 澤田(律) 澤田(卓) 田中(重) 田中(由) 苦瓜
野村 山本(清)
- 行 動 記 録：
 - 南 山：宇原登山口 9:15～南山山頂(10:00 着)10:10 発～展望東屋(11:05 着)
11:15 発～北山神社 11:40
 - 禅師山：登山口(忠霊塔) 12:45～尾根分岐(13:45 着)13:50 発～養法寺跡
13:55～反射板 14:00～禅師山山頂(14:05 着)14:25 発～尾根分岐
14:45～登山口 15:35

◆◆南山・禅師山(宍粟50山)に参加して

田中(由)

12月とは言え暖かで雲一つない絶好の登山日和だった。

先ず南山登山口で宇原坂地藏にお参りをしてからストレッチをすませ登り始めた。いきなりの急登は今までの山行で大分慣れたつもりでしたが、行けども行けどもの直登が50分ぐらい続いて、やっと山頂に着き宍粟の山々や田園風景を眺めながらホッと一息つき三等三角点のところで記念撮影・・・

下山もガレ場が多く足場を選びながら一步一步慎重に進み、希望の丘展望台東屋からは掛保川沿いの集落が望めた。どんぐりの道は名の通り、多くのどんぐりを踏みしめながら北山神社へ下った。



禅師山へは車で移動して登山口の忠霊塔のところで昼食をすませ、今度は禅師谷の岩場の急登で汗を拭きながらやっと尾根まで登り、禅師山廃寺跡を経ると“山頂まで10分の立札”に、後一頑張りと思いながら山頂を目指した。

少し休憩して下山を始め暫くは歩きやすい山道だったが、途中から急な下りで木々を持たないと転げ落ちそうな厳しい下山となりました。

低山ながら宍粟の山の奥深さを教えられ勉強となった山行でした。アクシデントも有りましたが、お世話になりありがとうございました。



■納山会 虚空蔵山 新たんば荘(篠山)

● 日 程：12月12日(土)～13日(日)



■油井コース

- 参 加 者：L 砂川(延) SL 山本(正) 大谷 田中(良) 田原 中村 西脇 森下
- 行 動 記 録：油井公民館 10:50～油井バス停 11:20 発～山上山山頂(11:50 着)
12:00 発～展望岩(12:25 着・昼食)12:50 発～八王子山山頂
(13:30 着)～虚空蔵山山頂(14:05 着)14:15 発～藍本分岐
(14:30 着)～陶の郷分岐(14:40 着)～陶の郷(15:00 着)

◆◆納山会・15周年記念山行

田中(良)

例年参加したいと強く望むのですが仕事の都合などで参加できない年が続いていました。今年こそはと納山会の話が出た頃から、参加を決め楽しみにしてきました。ですが若者3人衆??のリーダーが体調不良「な・な・なんてこった!!」。前日の会社での電話声もガラガラ、体調も悪そう。体調の事を考え諦めてもらい、今回は二人での参加とあいなりました。

出だしから少し不安なスタート。それを暗示するかのように、当日集合時間に遅れるという社会人にあるまじきミスを犯す(皆さま申し訳ございませんでした)有り様。しかし、天候は前日までの悪天候が回復。日頃の行いに少し感謝しつつマイクロバスで篠山へ出発。

途中、それぞれの合流地点を通り、あっと言う間にスタート地点である油井バス停へ到着。

残りの班とはここでお別れ。後で聞いたことですが、①コースが最長コースとのこと。

「しくじった!」と思いつつも選んだからには楽しむしかないと思いスタート。ところがどっこい山道の入り口が見つからないではないですか。不安がよぎる中、探し回ること40分?やっと民家の横の細い入り口を発見。メンバーに安堵の表情。意気込んで山道へ入っていく。あれ?どうした一気に斜面が急になるではないですか。すぐにふくらはぎの筋肉がはり、汗がにじみ出てくる。日頃の運動不足がたたなり、ほんの10分もしない間に疲労困憊。やっとの思いで山頂の山上山へ辿り着く。この先どうなるのかとっていると、

上がっては下るを繰り返す私にとってはしんどいコース。展望岩では絶景を見下ろしながら昼食をとる。昼食後も、上り下りが激しい。前日の雨も相まって下りに対する恐怖心が拭い去れない。恐怖心と闘いながら八王子山を抜け虚空蔵山。別の班とも出くわしながらその度に元気をもらう。藍本分岐～陶の郷分岐をへて陶の郷へ。正直、アップダウンのあるコースで疲れましたがやはり山歩きは楽しい。

仕事での憂さを解消してくれるし、すがすがしい気分にしてくれる。毎回、高御位山遊会に入って良かったと感じる瞬間です。



そして、汗をかいた後のお風呂は格別。さっぱりとしていざ宴会。冷えたビールに、テーブルに並ぶ料理、綺麗な牡丹の花が咲いたような猪肉の大皿。鍋が最高。余興とカラオケであったという間に楽しい時間が過ぎました。

翌日の篠山市内の観光も含め、本当に充実した楽しい納山会でした15周年という節目の納山会に参加でき本当に良かったです。皆さま本当にありがとうございました。



■藍本コース

- 参 加 者 : L 和田 SL 荘所 内海 澤田(卓) 澤田(律) 砂川(美) 田口(末)
田口(善) 田中(重) 時井 中嶋 藤田
- 行 動 記 録 : 藍本駅 11:10 発～藍本郵便局前 11:15～舞鶴若狭自動車道
トンネル 11:30～登山口(11:35 着) 11:40 発～虚空蔵堂(12:05 着)
12:30 発～尾根 12:50～虚空蔵山頂(13:05 着) 13:20 発～
藍本分岐 13:27～陶の郷分岐 13:42～陶の郷 14:15

◆◆納山会②コースに参加して

藤田

青空が所々に見え12月にしては暖かいお天気である。11時少し前にJR藍本駅に着き身支度を整えた後11時過ぎに出発した。JR沿いに南へ、古い雰囲気を感じる街並みを歩く。歩きだしてすぐに石垣の見事な酒垂神社の脇を通過した。少しして郵便局がありそこを右折する。田圃の中を一本道が延びている。その先で舞鶴自動車道をくぐり抜けて左折すると参拝登山道の案内看板があった。ここまで約30分。ここから本格的に登山開始である。

沢沿いの径で心なしか水音が冷たく感じられた。間もなくしてごく短い区間であるが沢の中を歩く。石ころの径で歩きにくい。径が左に曲がる地点に近畿自然遊歩道と書かれた標識とともに虚空蔵山1km(虚空蔵堂0.3km)の道標が設置されている。ここから径は少しきつくなって来てゆっくり進んだ。程なく階段とその先に虚空蔵堂がみえた。山中の御堂にしては立派な建物である。丁度12時になっていたのでここで昼食タイムになった。御堂の右手から登山を再開する。径がきつくなったと感じたが10分程で陶の郷への分岐点を通り、また少し登って見晴らしの良い岩山に出た。頂上はすぐ目の前であるので素通りする。頂上は木々に囲まれて見晴らしが良くないので記念撮影後に先程の見晴らしの良い岩山で休憩する。少し霞んでいるものの遠くまで山々が眺望できる。目の前の和

田寺山との谷間には立杭の町が広がって見おろすことが出来た。下山道は険しい径のため慎重に進んだ。鞍部の分岐点で三本峠からのグループと出会う。

急坂を思うとご苦労様、また御安全にと思う。

14時過ぎに下山した。いままで何度となく通りすがりに見てきた山ですが、登山道も整備されて危険な場所もなくて、手軽に登れる山であったと思います。



■三本峠コース

- 参加者：L 上田 SL 森本 貝塚(文) 田羅間(勤) 前川(克) 舩賀
- 行動記録：篠山上水道今田加圧所 11:25～アイゼン装着(12:00 着)12:08 発～高圧線分岐 12:12～昼食(12:33 着)12:54 発～陶の郷分岐 13:42～藍本分岐(14:01 着)14:04～虚空蔵山頂上(14:18 着)14:28 発～陶の郷分岐 14:49～陶の郷 15:15

◆◆三本峠から虚空蔵山へ

前川(克)

今年も2回目の納山会に参加した。最近は忙しく山行にご無沙汰であったが、この納山会だけは夜の宴会を楽しみに無理をしてでも是非参加したかった。当初②コースの藍本コースを予定していたが、当日の成り行き上③コースの三本峠コースとなった。運転手が登山口を事前に把握しておらず、スタート地点到着までに戸惑った。③コースメンバーは男性ばかりの6人で、和太鼓奏者、尺八奏者、民謡詩吟の歌い手、名司会者といった正に納山会に不可欠な方々ばかりに囲まれてしまった。いきなり予期しなかった感想文担当に指名され、唯一芸のない者の宿命かと自分を納得させ引き受けることとした。

11時25分、今田加圧所の右脇の道から上り始めた。この辺りは関電の送電線鉄塔に添って登ることになっているようで、登山道として整備されていない関電の巡視路を登っていくようだ。途中分岐点に何度か遭遇することになるが、標識はあるが登山の案内はなく火の用心とか鉄塔番号など意味不明な記載ばかりで、皆さん初めてなのでリーダーが注意深く位置を確認しながら進んだ。丹波焼きの産地とのことで、巡視路は粘土質の道であり、岩場もあり昨日の雨の影響で滑りやすく、途中軽アイゼンを付け滑りに備えた。朝方の曇り空も登り始めるころには晴れてきて、ほぼ尾根伝いに登るので12月中旬にしては風もなく暑くなり、すぐ上着を脱いだ。

12時30分2つ目の鉄塔の下で昼食。見晴らしは良く舞鶴道や藍本の町並みが良く見える。13時40分陶の郷からの合流点で既に虚空蔵山から下山した②グループに遭遇。

さすがに②グループは女性も多く賑やかだ。大きな差をつけられ、このままでは15時の集合には間に合わないのではとプレッシャーがかかり、ひたすら真っ直ぐに登ることとする。14時20分やっと虚空蔵山山頂に到着。既に登頂を済ませた①グループに遭遇し、我々が最後であることを認識。

山頂は曇り空で霞があるものの瀬戸内海、淡路島、六甲山系などしっかり見えた。また、岩場に立つと三本峠からの歩いてきた山並みが見え、アップダウンのきついあの5つの山を越してきたのだという充実感に満たされた。集合写真を撮った後直ちに下山。下山道は



急なものの階段があり、巡視路よりは歩きやすかった。途中アイゼンを外して、皆さんの待つ陶の郷に15分遅刻で到着。

迎えのバスに乗り込み20分余りで今夜のお宿“新たんば荘”到着。温かいお風呂に浸かって疲れを癒し、夜はぼたん鍋をつつついて飲みや歌えや踊れの大宴会。皆様のお陰で、本当に楽しい納山会になりました。来年も宜しくお願いします。



■藍本駅南部から草津駅コース(日帰り)

- 参 加 者：L 本多 塩津 矢根
- 行 動 記 録：藍本駅 11:05～登山口 11:30～虚空蔵堂(11:50 着)11:55 発～虚空蔵山(12:20 着)12:30 発～(13:25 着)13:35 発～大谷山 13:50～山上山 14:00～油井登山口 14:25～草野駅 14:50

◆◆納山会

矢根

12月12日(土)、8時30分に納山会に参加の皆さまと新たんば荘からの送迎バスで、高砂駅を出発し、加古川、滝野を経てJR藍本駅前で降車。ストレッチをしてから歩き始めました。

登山口から川の流れの音を聞きながら登って行きました。そして、階段を上ると虚空蔵堂が見えてきました。ここは聖徳太子ゆかりのお寺です。お堂の右奥からは、急登の登山道が続き、途中ほころの中での役行者(えんのぎょうじゃ)の石像に出会いました。その後、尾根筋の道に出て少し楽になりました。山頂手前の岩の上からの眺めは、少しもやっていたがとてもすばらしく、遠くには六甲山も見えました。山頂を過ぎ、大谷山、山上山と歩き、下りの鎖場では、リーダーに声を掛けてもらいながら降りましたが怖かったです(ヒヤヒヤ)。滑りやすい道を進み、油井登山口に到着しました。

JR草野駅から、電車に乗り帰宅の途に着きました。
御一緒していただいた、本多さん、塩津さんありがとうございました。



■クリスマス山行(六甲・黒戸尾根から摩耶山)

- 山 行 日：12月19日(土)
- 参 加 者：La 砂川(延) SLa 田羅間(易) 田口(末) 田口(善) 田中(重) 田中(美) 田中(由) 谷口
Lb 垣内 SLb 赤木 植濃 大谷 乙坂 島谷 土井 苦瓜
LC 待場 SLc 開 橋本(健) 平石 前川(克) 前川(典) 村上
Ld 森本 SLd 和田 山田 山本(清) 山本(正樹) 渡辺(和)

- 行 動 記 録： J R 新神戸駅 9:10 発～桜茶屋(10:00 着) 10:10 発～地獄谷出会 10:20 発～第 1 P (10:40 着) 10:50 発～第 2 P・休憩 11:10 発～第 3 P・休憩 11:30 発～展望所・休憩 12:25 発～掬星台(昼食・12:35 着) 13:10 発～不動滝(13:55 着) 14:00 発～東山 (14:25 着) 14:30 発～雷声寺(14:50 着) 15:00 発～ J R 新神戸駅(15:15 着) 15:45 発

◆◆初めて参加したクリスマス山行

谷口

嬉しくて寝付かれない夜を過ごして、六甲クリスマス山行の朝を迎えました。私にとってはまるで小学生の遠足気分！めったに乗らない地下鉄には乙坂さんのお蔭で無事に乗れました。ありがとうございました。

9時、いよいよ出発です。身体をほぐしたらすぐ六甲の林の中を歩いて行きました。三ノ宮周辺の雑踏から離れ、気持ちの良い空気が待っていてくれます。10時に桜茶屋に着き、ここから4つのパーティに分かれて歩き始めます。土曜日のせいか多数の登山者がおられました。

20分もしたら、黒岩尾根への分岐点です。矢印の方に進んだ途端、かなりの登り坂。先頭を歩く砂川会長は頭をぐっとあげなければ観ることができなかったです。まあ、最初だけかなっと思っていたら、全くの逆でした。もちろんアップダウンがありましたが、何度「まだ登るん？」頭を上げて、リーダーの姿をとらえたことでしょう。(笑)



尾根のピークから下りに入ると、北から吹き上げてくる風の激しさ、冷たさを身体一杯に受け止めました。

ヒューヒューゴーゴー、合間に吹くザザーという強い風、葉の揺す振られる音、自然の音に感動でした。

12時半に掬星台でお弁当。食べ始めたら背後から砂交じ

りの突風がやってきて、口の中でジャリジャリとなった人もおられました。見晴らしは最高でしたが寒かった。

帰りは旧摩耶道を歩き新神戸駅へ。天上寺跡の史跡公園を過ぎてから続く長い階段。やっと終わったと思ったら、幅広の階段が延々とあり参りました。

しかし、“ZAKOBA”に着いたら笑顔満載のテーブル。ピッチャーのビールがどんどんなくなり、どのテーブルもかなり盛り上がっていたようでした。山に登り始めて2か月半。行くたびに山の魅力にはまっています。お世話して下さった方々をはじめ、参加の皆様本当に楽しい一日をありがとうございました。

◆◆クリスマス山行に参加して

平石

初冬の気配漂う12月19日、六甲山黒岩尾根山行に参加しました。申し込みはしたものの山行の数日前に「あそこはキツイよ、キツイ、キツイ！」と多くの人に言われました。

何も知らずに参加を決めて浮かれていましたが、一緒に参加を予定していた2人がキャンセル！ああ、私もやめておけば良かったかなあ、と気分は朝から超ブルー！

新神戸駅を予定通りに出発し、桜茶屋までの坂道をどんどん登って行きました。登山道の右側には川が流れ、滝もありましたが、川のせせらぎも滝の音も寒々としていました。

桜茶屋でストレッチをした後、4班に分かれて歩きました。

少し歩いたところから私たちC班とD班は天狗道を歩きました。天狗道は、六甲縦走コースの一部らしく、変化に富んだ岩やたくさんの階段、急登がありました。風が強かったので、衣服を調節したり、何回か休憩したりしながらゆっくり楽しんで登りました。登っていった階段の前方にテレビ塔などの通信施設がずらりと立ち並んで私たちを出迎えてくれました。摩耶山頂上です。掬星台からの眺望は素晴らしく、好天に恵まれ、海がキラキラ光っていたのが印象的でした。ポートアイランドや神戸空港など港町神戸を見渡すことができました。

ただ、冷たい風を避ける場所がないので、昼食を済ませるとすぐに下山しました。下りの足取りは皆軽く颯爽と下って行きました。下山道は落ち葉で道が分かりにくく滑りそうになったので、ストックで払いながら歩きました。

下山後は、“ZAKOBA”で乾杯。お疲れさまでした。“ZAKOBA”は雰囲気がとても良く、いろいろなおつまみを少しずつ楽しみました。クリスマスグッズを持参された方もあり、さらに盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができました。

六甲山は多彩なコースがあるので、これからもいろいろな六甲山を歩きたいと思います。朝の憂鬱な気分がうそのように楽しかったです。

リーダーさん、何度も振り向いて後ろを気に掛けてくださり、ありがとうございました。みなさま、お世話になりました。



■新春トレーニング山行 高御位山～桶居山

- 日 程：1月3日(日)
- コース：新池駐車場→高御位山→桶居山への分岐→桶居山→240m鉄塔のあるピーク→別所奥山→209mピーク→百閒岩→鹿嶋神社→新池駐車場

● 参加者名簿

1班	L砂川(延) SL垣内 小山 関山 谷口 西口 山下(雅) 山本(正樹)
2班	L三木(悦) SL佐々木 岡本 島谷 中嶋 長谷川(易) 前川(克) 山田
3班	L山本(正一) SL瀧原 大野 田中(重) 橋本(健) 宮崎 村上 清水(途中参加)
4班	L和田 SL待場 大谷 田中(美) 西川 藤田 藤本
アンカー	L澤田(律) SL上田

- 行 動 記 録:長尾新池駐車場 9:10 発～鉄塔(衣服調節・9:28 着)9:31 発～高御位山頂上(9:50 (1コース) 着)10:05 発～桶居山への分岐点通過 10:37～休憩(10:44 着)10:50 発～鉄塔桶居山分岐点(11:39 着)11:50 発～桶居山頂上(12:10 着)12:15 発～鉄塔桶居山分岐点(昼食・12:40 着)13:00 発～別所中池を渡り休憩(13:45 着)13:55 発～縦走コースに合流 14:58～鹿嶋神社 15:25 着～長尾新池駐車場(16:00 着)
- 行 動 記 録:新池駐車場 9:10 発～鉄塔下(9:30 着)～高御位山頂上(9:55 着)10:05 発～桶居山(3コース)分岐(10:45 着)～分岐鉄塔下(11:50 着)11:55 発～桶居山頂上(12:25)12:50 発～中池(14:10 着)14:20 発～百閒岩手前鉄塔(15:20 着)15:25 発～鹿嶋神社(15:45 着)～新池駐車場(16:20 着)

◆◆出発時は1班だったが・・・

西口

去年後半より、私の諸事情で自宅に引きこもりがちだったが、ぼつぼつその状態から脱却したいと思うようになった。

高御位山遊会に入会した時から、「新春トレ」に参加していた。トレーニングも山行も参加していないブランクの期間が長く不安を感じたが、上田さんに思い切って年末に「参加します。」と、メールを送信した。

1月なのに気温の高さが気になったが、お天気は申し分ない。モチベーションを保持出来れば何とかなると思い、長尾新池の駐車場から同班の人達と出発した。高御位山頂手前から早々に呼吸も乱れて、「こんな状態で縦走できるのか？」と、不安が頭を過った。



班員に迷惑を掛けてはいけなと考え1班から離脱して、澤田さん、上田さんのアンカー班に加えてもらう事にした。

高御位山頂で呼吸を整え桶居山を目指した。

すると鉄塔付近で、ザックが1つぽつんと置いてあった。多分、会員の誰かが置いていったのだろうと思い、私もザックをデポして空身で登りだしたが頂上手前で残念ながらリタイアすること

になる。来年はきっと!!

桶居山から下山して来た二人と合流して別所中池まで下りた。そこからの登り返しや、百間岩までのアップダウンに何度も歩みが止まりがちになるが、何とか無事に鹿島神社に辿り着いた時は安堵感で一杯だった。

アンカー班のお二人には本当に感謝感謝でした。ピッチも上がりず歩みの遅い私を最後までフォローして頂いたお蔭で、長い7時間半の行程を無事に終了出来ました、トレーニングの大切さを痛感した「新春トレ」だった。

◆◆新春トレーニングに参加(高御位山～桶居山)

村上

晴れ。今年は3月中旬から4月下旬並みの暖かさだ。菜の花も満開です。3班は新池をスタートしてひたすら最後尾を登る。後方にはアンカーを務めるおふたりのみです。先頭1班のSさんの歩行はゆっくりと一步一步、一定の速さです。続いて2班、4班と連なって登る姿は下から見上げると壮観だ。高御位神社で参拝後、高御位山遊会で植樹した新芽がついた桜の木を皆で確認。尾根を上り下りしながら、眼下に鹿島神社に初詣する車の長い列を眺めながら、桶居山への分岐地点を通過、北側の下山道は岩がぬれていて滑りやすく、一步一步注意して足を下ろす。鉄塔を過ぎ、桶居山の下へ。一気に登り、12時20分頂上へ着いた。30分のゆっくりめの昼食の間もぽかぽか陽気で、背中にかいた汗も冷えることなく冷たいスイカが食べたくなるような心地良さだった。



一気に下り前に行く三つのパーティが見え隠れするのを追うように別所中池のほとり

へ。小休止の後、登り始めは北の斜面なので登山道は濡れてグジュグジュ。ひとつの頂を過ぎると尾根道を下って、次の登りが続く。そんな中でも暖かい気候の為か、きれいに咲いてしまったツツジの花をみんなで眺めてホッと一息。いつもの清掃登山のコースにでる。百閒岩を下って鹿島神社に到着。初詣で華やかな雑踏の中を新池まで雑談しながら歩く。今年もみんなと一緒に歩くことができました。



■臥牛山(日本一高い天守閣 備中松山城がある山に登る)

- 日 程：1月6日(水)
- 参 加 者：La 尾内 SLa 藤本 有本 大谷 香川 川上 田中(重) 田中(由)
中嶋 苦瓜 村上 山下(純)
Lb 三木(悦) SLb 渡邊(俊) 内海 篠原 田中(美) 中村 平石
開 藤田 舛賀 山本(清)
- 行 動 記 録：J R 備中高梁駅(10:12 着)10:25 発～登山口(10:50 着)～
ふいご峠(11:20 着)～備中松山城(11:50 着)13:05 発～
吊り橋(13:25 着)～臥牛山(13:45 着)～登山口(14:40 着)
15:00 発～備中高梁駅(15:25 着)15:48 発

◆◆電車にゆられて臥牛山へ

山本(清)

今年の初山行は青春18きっぷ利用で岡山県高梁市・臥牛山へ。

加古川駅集合組は改札口へ6時45分なので、加古川線社町駅5時57分の始発便に乗車した。暖冬といえども朝日が昇る前は相当冷える。

それぞれの最寄駅に集合した23名は姫路駅で合流した。新年の挨拶もそこそこに、2時間41分のローカル列車の旅がスタートした。車内はワイワイ・ガヤガヤまるで修学旅行のようだ。ゆっくり景色を眺める間もないほどあっという間に高梁駅へ到着した。

高梁駅周辺は通勤時間帯が過ぎているせいかひっそりとしていた。

登山道はドングリと落ち葉に覆われた歩き易い道であったが、間もなくハアハアと苦しくなってきた。正月で緩んだ気持ちと身体を目覚めさせようと、前日に三草山を歩いたが、効果がなかったようだ。山頂まで辿り着けるだろうか心配しながら歩く。

そんな中「あわてず ゆっくり歩むべし 城主」の立て札に出会い気持ちがほぐれた。備中松山城を眺めながらの昼食。汗をかいた身体が冷えて風邪をひきそうだった。

現存天守を持つ山城としては最も高い所にあるという城へは登山靴を脱ぐのが大変で入城しなかったが、今になって悔やまれる。立派な石垣が城を囲んでいる。歩くだけで大変なこんな所までどんな方法で運んだのだろうか。多くの汗と涙が流れたのだろうか。周辺には遺跡が点在している。いにしへの栄華を想像してみる。

大きな谷にかかる吊り橋を渡って臥牛山へ。ここの谷の辺りに猿が集団で住んでいるそう。

自然に暮らす猿を見たいと思ったけど実際出合うと怖いだろうな。臥牛山は自然の宝庫だそうで猿たちも暮らしに困らないことだろう。山頂付近には大きな棘の付いたタラの木が沢山あった。俗に「嫁タタキ」と呼ぶそうだが、近頃は「婿タタキ」・・・だそう。見せられるだけで効きそう。

下山は長く続く坂道。同じ道を通っても上りと下りでは随分と負担が違う。こんな坂を上って来たのかと、しんどかったのが頷ける。ストックの力を借りたほうがいいのかもと思う時がある。下山した後は城下町の風情のある街並みを眺めながら高梁駅まで歩く。

再び各駅停車の電車で帰途につく。日暮れの早いこの時季、間もなく景色は見えなくなっていた。加古川駅で解散して、乗換の電車を待つ時間が40分、家に着いたのは21時近かった。

初山行は疲れたけれどとっても楽しかった。

